**説教20230604マタイ7：21-27ローマ3：21-28「信仰による行い」**

**罪というのは、私たちにしつこく絡みついて来て、私たちをイエス様の息吹から引き離そうと働く悪しき力であります。私たちはその罪の力を振り払うために、益々、イエス様と親密になり、息吹きかけられて、御言葉に生かされるようにされます。イエス様なしでは私たちは、罪を捨てることが出来ません。**

**その人間の罪について、今日の聖書箇所は大変印象深く語っています。**

**ローマの信徒への手紙3章 25節**

**神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。**

**そうですイエス様は人が犯した罪を全て見逃して下さるお方です。それはイエス様が慈しみと憐みと癒しに満ちた方であるからです。**

**さて、この世にあって、私たちが、罪を見逃すという言葉を聞いたなら、そのことをどのように受け止めるのでしょうか。私は二つの出来事を思い起こしました。一つ目は、とても子煩悩で過保護な親が、罪を犯してしまった我が子に対して、いつも「いいよいいよ」と言って、安易にその罪を見逃してしまうケースです。この場合、罪を見逃し続けることが、かえって罪を高じさせてしまって、よくない方向に向かっていく事が考えられます。**

**二つ目は、任侠の世界で、弱きを助け強きをくじくリーダーが、弱い立場の人が追いつめられて犯してしまった罪を見逃して逃れさせるというケースです。この場合、その弱い立場の人は、牢屋に入るべきところを逃れられたといった、良い結末が予想されます。**

**キリストが人の罪を見逃して下さるということを、この世間の二つの出来事と比較するのも畏れ多いことですが、敢えて言えば、二つ目のケースの方が、キリストと同じ向きに進んでいると言えるでしょう。しかし、そのスケールは比べ物になりません。私たちは、キリストによって各々の罪を見逃してもらうことによって、牢屋に入るべきところを逃れさせていただくどころか、死ぬということからも解放され、永遠の命を頂く道へと招かれるのです。**

**キリストは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになられます。**

**神の義とは何でしょうか。それは神の正義であります。神の正義は、旧約聖書の出エジプト記や申命記などに記されている律法と、イザヤ書などで預言されているキリストご自身のことです。神の義は、キリストが私たちの罪を見逃すことによって、私たちに示されます。私たち人間は、多くの罪を犯しているにも関わらず、全ての罪をイエス様によって見逃してもらえ、その上、神の正義に等しいものとされ、罪人であるにも関わらず、無罪の判決を頂ける者へと変えられるのです。私たちは、神の恵みによって無償で義とされるのです。**

**私たちが無罪とされ、絡みつく罪の鎖から解き放たれるということは、この地上生涯で、最も大切で喜ばしい出来事であります。なぜなら、私たちが罪の鎖から解き放たれるということは、永遠の命への道が眼前に開かれていく事に等しいからです。キリストによって無罪とされることで、もはや私たちは、死んで何もなくなってしまうと言った思いに縛られることがなくなるのです。**

**キリストは、私たち人間の罪を見逃して、私たちが永遠の命の道を信じて生きることが出来るように、私たちを変えるために、この地上に来られたのでした。そして、私たちの全ての罪を背負って下さって、私たちの身代わりに十字架刑に掛けられて、血を流されました。その血は、まぎれもなく、私たちのために流された血なのです。私たちはキリストの血によって、無償で永遠の命に至る道を手に入れることが出来たのです。それゆえ私たちは復活をされたキリストに感謝と賛美を捧げないではいられないのです。**

**憐れみと慈しみと癒しの神であるキリストは、このように無償で、私たちに永遠の命を恵んで下さるわけですが、それを拒んでいるのも、又私たち人間の罪であります。人間の罪と言うのは何と罪深いことでありましょう。**

**ローマの信徒の手紙を書いたパウロは、人間の罪の一つとして、人の誇りということを挙げています。**

**ローマの信徒への手紙3章 27節**

**では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。**

**パウロは、人の誇りを取り除かれるべきよくないことと認識しています。人の誇りということは聖書において退けられています。**

**コリントの信徒への手紙一1章29-31節**

**それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。**

**神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。**

**「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。**

**そもそも、この礼拝ということが、自分たちをほめたたえる処ではなくて、主なる神だけをほめたたえる処であるということからして、このことは自明のことだと言えるでしょう。**

**そして、この人の誇りということも罪の一つであり、それがしつこく私たちに絡みついて来ることも又自明なことで、私たちの地上生涯と言うのは、この自分を誇ることから、なんとかして逃れて、主なる神だけを誇る者へと変えられようとして、もがいている歩みであると言ってよいでしょう。**

**パウロ自身も、クリスチャンになる前は、自分自身を誇る思いを強く持った人物でした。**

**パウロは、クリスチャンになる前の自分のことについて次の様に語っています。**

**わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。**

**パウロはこの様にかつての自分がエリート意識に縛られた誇り高い人物であったことを、わざと印象深く記している様です。しかし、キリストに出会って、パウロはその人の誇りが何の役にも立たないばかりか、マイナスに働くことであることを悟らされたのです。**

**人の誇りは、この世で華々しく活躍できる時には、保たれますけれども、人がこの地上生涯を終えようとする頃には、失われていくものですし、人の誇りを無理に保とうとするとそこには苦しみが生ずることでしょう。それに引き換え、主なる神を誇ることは永遠に続けられることであり、最後に自分で何もできなくなった時に、神を誇る祈りの喜びは最高の喜びになることでしょう。**

**パウロは人を誇ることが罪であることを身をもって体験し、よく知っておりました。そして次の様に語ります。**

**人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。**

**パウロは、罪深い人間の行いが取り除かれ、正義とされるのは、行いの法則によらず、信仰の法則によるのだと言っています。**

**パウロは自分自身が、ファリサイ派としてキリストを迫害するという信仰から、キリストを信じてその福音を述べ伝えるという信仰へと180度向きを変えられた人でありますので、人の行いの根底に、信仰の在り方が横たわっており、信仰が、行いを形作るのだということがよく分かっていたのでした。**

**私たちも、そのことは良く理解できることと思います。私たちは、死んでしまったらすべては消えてなくなって何も残らないのだという空しい信仰を抱いていては、日常の生活は不安と焦りに満ちた、喜びがない物となって、その行いは怒りに彩られてしまいます。**

**しかし、クリスチャンとなって、キリストの信仰・希望・愛に生きるようにされれば、日常の生活は希望と愛に満ちた、喜びとなって、その行いは赦しに彩られることになります。**

**この様に、私たち人間がどのような信仰を持つかということは、私たちの行いを定める、とても重要な事柄であります。私たちの行いは、信仰によって導かれるのです。**

**聖書は、キリストを信じることこそ、正しい信仰であり、キリスト信仰によって、私たちは神の正義に入れられるのだと語っています。**

**憐れみと慈しみと癒しの神であるキリストは、この地上を去る時まで罪人である、私たちの罪をその都度、見逃して下さるお方であります。罪深いこの私を憐れんで下さいと言ってすがりつく全ての人を、キリストは豊かに赦して下さって、神の正義をお与えになられます。キリストに在っては、深い愛情と、最後まで道を踏み外さないための正義とが、一体となっています。私たちは、臆することなく、キリストに近づくことによって、深い愛情と正義とを同時に与えられるのです。**

**今日の週報に神の正義を語る神の言葉の基本である十戒を記しておきましたが、十戒は私たちがいつも忘れてはならない、大切な神の御言葉であります。私たちはこれらの御言葉を、慈しみ深いイエス様の口から聴くのが良いのです。それはどういうことかと言いますと、たとえば、今日のマタイ福音書には、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』とイエス様に向かって言った大勢の者たちのことが記されています。この者たちは、実はイエス様から離れたところで、御心を行う自分を誇り、十戒を守っている自分を誇っていただけなのでした。そのような彼らの信仰の在り方が、律法主義によって人々を縛り付ける罪を高じさせたことは想像に難くないでしょう。**

**イエス様は、とにかく私を憐れんで下さいと言って、自分の罪を隠さず近づいて来る人を喜ばれる、愛のお方です。そして、それまでの罪を全て見逃して、新たに神の正義をお与えになる事が出来る唯一のお方です。**

**今、様々な罪に縛られて「あなたの父母を敬え」という十戒を実行できないでおられる方も、憐み深いイエス様に近づきその愛を受けることによって、あなたの父母を敬うことを喜んで実行するものへと変えられます。**

**キリスト信仰と言うのはこのように実に素晴らしく、計り知れない幸いであり、私たち人間の唯一の救いの道であります。どうかこのことを信じる信仰をも、キリストがあなたにお与えになりますように。**

**祈り**

**憐み深い父なる神**

**神よ、聖霊溢れるこの地上に在って、私たちを守り祝し、その生活を導いて下さい。私たちを悪からお救い下さい。**

**今日、この会堂に出席で居ないでおられるお一人ひとりの生活を守って下さい。悩み苦しみが、あなたの御言葉によって喜び幸いへと変えられますように。**

**今、病気と闘っておられる方々、殊に阿南さんや高瀬さんを覚えます。どうか、あなたに向かう祈りの言葉によって、体と心が癒されますように。又、私たちが祈る執り成しの祈りがあなたによって聞き届けられますように。**

**あなたはこの地上に草を育み花を咲かせます。草花の営みは、私たちの眼には、やがて枯れ、しぼむものでありながら、あなたから見れば、永遠の祝福の営みです。どうか私たちも自分で自分を誇る心から解き放たれ、あなたの永遠の祝福に入ることが出来ますよう、私たちの心と体を解き放って下さい。**